

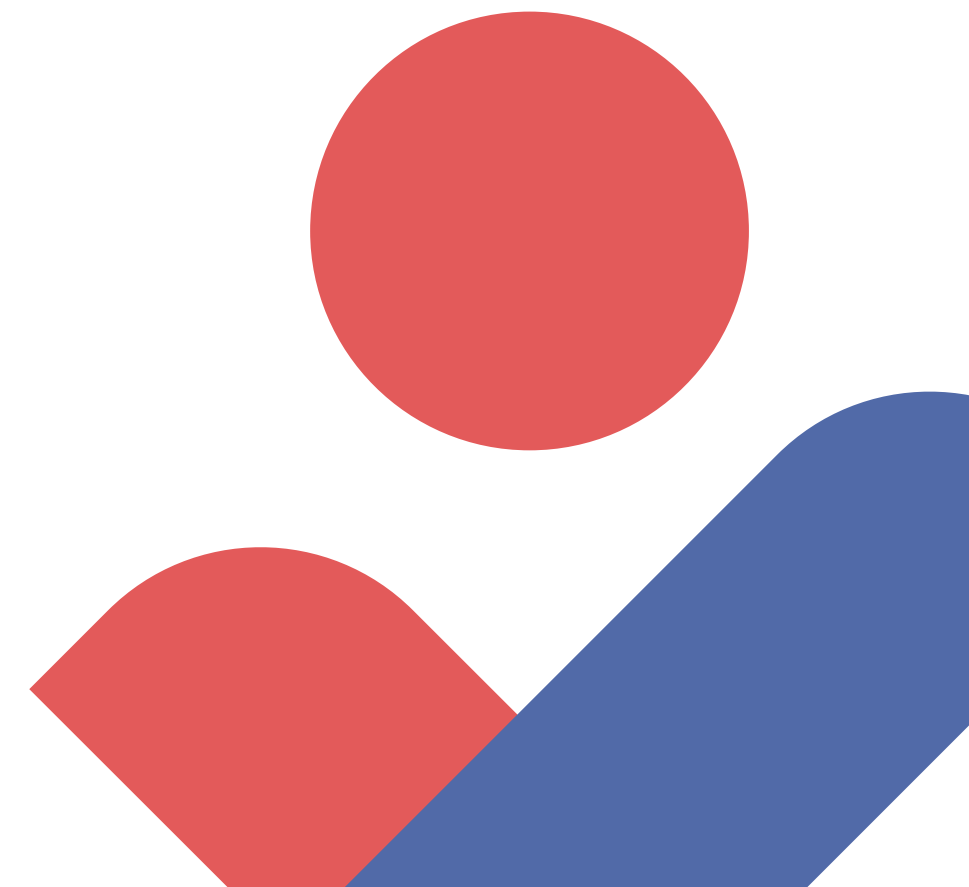
株式会社大倉製作所OK-DX戦略資料

図面とデータで、燕のものをづくりを次の世代へ

2026年8月25日

株式会社大倉製作所

代表取締役 大倉 龍司



- | | |
|-------------------------|---------------|
| 01 事業環境の変化 | 07 DX推進体制 |
| 02 代表挨拶 | 08 デジタル人材育成 |
| 03 経営理念・事業の特徴 | 09 ITシステム環境整備 |
| 04 ビジネスモデルの方向性 | 10 KPI（主要目標） |
| 05 デジタル・データ活用の方向性 | 11 まとめ |
| 06 DX戦略（既存DX／対外DX／新規DX） | |

01. 事業環境の変化

当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。

食品衛生規制の強化

半導体需要の増加

医療機器市場の拡大

人手不足

脱炭素

製造業DXの普及

当社はこれらの変化を 成長の機会 と捉え、 図面とデータを軸にしたものづくり改革を進めます。

02. 代表挨拶

図面とデータで、燕のものづくりを次の世代へ

私たちを取り巻く事業環境は、食品衛生規制の強化、

半導体需要の増加、医療機器市場の拡大、人手不足、脱炭素、製造業DXの普及といった変化に直面しています。

当社はこれらの変化を成長の機会と捉えます。

当社は燕市で特注ステンレス製品を製造し、少量多品種・短納期に対応することで顧客価値を提供してきました。

今後は図面管理と作業データを軸に、受注～設計～製造までをデジタルで一気通貫する体制を整え、

生産性向上と技術継承を両立する事業戦略を推進します。

DXを通じて、利益の出る仕事選択と品質向上を実現します。

株式会社大倉製作所 代表取締役 大倉 龍司

03. 企業理念・DXビジョン

業務の流れを整え、情報共有と顧客対応をスムーズにします。

企業理念

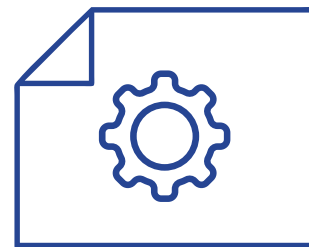
ものづくりを好きな人を育てる企業へ

経営ビジョン・DXビジョン

図面とデータで技術を継承し、利益の出るものづくりを実現する（OK-DX）

04. ビジネスモデルの方向性

受注～図面～工程～作業時間データを一元管理する
「**受注生産DX工場**」へ転換する。



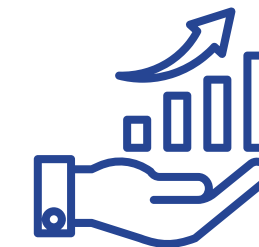
図面管理

図面管理と作業データの
活用により標準化・見える化
技術継承を進める。



問い合わせ管理

受注情報と生産データを連携し、
納期回答の精度を向上



営業管理

データに基づく受注判断で
利益率を改善

05. デジタル・データ活用の方方向性

図面管理と作業実績の デジタル標準化

01 工程時間の目安を可視化

02 見積単価の根拠をデータ化

03 ボトルネック工程を特定

04 品質安定化と生産性向上を両立

06. DX戦略（OK-DX）

01

既存DX

図面管理と作業実績の デジタル標準化

- 図面・工程・作業指示の属人化を解消
- ズメーンで図面・工程情報を一元管理
- 作業時間記録を定着させ、オペレーションを見える化
- 業務効率化と品質安定化を実現

02

対外向けDX

データに基づく見積 受注判断の高度化

- 図面属性・工程・作業時間データを案件別に分析
- 工程時間の目安と見積単価を可視化
- 見積精度向上 → 提案スピード向上
- 利益の出る仕事選択をデータで支援
- 品質の安定化につながる

03

新規DX

技術の見える化による 技術継承の仕組み化

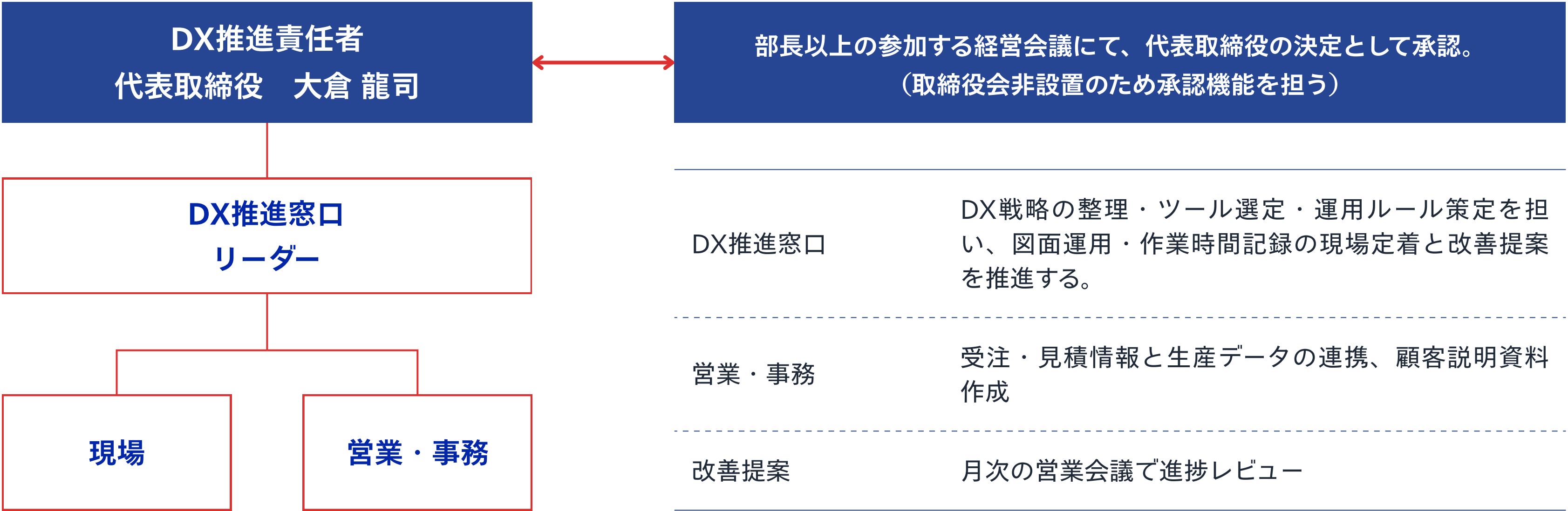
- 熟練技術を動画・標準書としてナレッジ化
- 教育プログラムとして体系化
- 作業時間データ＋不良情報からボトルネック工程を特定
- 工程設計の改善と技術継承を同時に実現

07. DX推進体制

DX推進活動「OK-DX」を設置

+ 図面管理アプリ「ズメーン」開発元・株式会社ファクトベースと連携し機能改善

体制図



08. デジタル人材の育成・確保

- 01 デジタルツールの基本操作研修を社内で継続的に実施し、若手・中堅のDXリテラシーを高める。
- 02 毎週月曜日の全体朝礼にて、ズメーンのアップデート内容や、運用方法の変更についての説明を行う。
- 03 新人営業にデジタルツール教育を行い、DX活動への参加を促進する。

09. ITシステム環境整備

01 図面管理基盤の整備

- 図面管理アプリ「ズメーン」を全社基盤に
- 材質・板厚・形状など図面属性をデジタル一元管理

02 作業実績・作業時間記録の仕組み整備

- 全社員にタブレット支給
- 主要工程の作業時間記録をズメーンで統一
- 作業標準時間の把握とボトルネック特定を可能に

03 データ分析・可視化環境の整備

- 案件別・工程別の分析環境を整備
- 運用定着まではExcelで管理し、将来的に自動化を検討

04 受注～生産計画連携の高度化

- 納期・負荷をデジタル管理
- 受注情報と連携した生産計画を高度化

10. KPI（主要目標）

◆定量指標

作業時間記録率（1年以内）

90% 以上

見積と実績時間の乖離率（3年以内）

±10% 以内

利益率（3年以内）

営業利益率 **3%** 増

◆定性指標

作業時間データの活用 → 見積精度の向上 → 利益の出る仕事の選別 → 利益率の改善



技術ナレッジの蓄積・教育プログラム化により持続的に稼げる工場へ転換
(達成基準：営業利益率3%増)



営業の想定作業時間と現場の作業実績の剥離率を下げる
(達成基準：剥離率を±10%以内)



図面管理をズメーンに統一し、主要工程の作業時間記録を定着（達成基準：90%以上）

図面とデータで、燕のものをづくりを次の世代へ。

OK-DXにより、技術継承・生産性向上・利益改善を同時に実現し、
地域製造業のモデルとなるDXを推進します。

